

# 聞き書き 北陸地方のキリスト教保育史 (1)福井県

児 玉 衣 子  
菅 原 創  
上 垣 信 子

## 序

北陸地方は、わが国で現在まで存続するキリスト教系幼稚園のうち、最初の幼稚園である現在の北陸学院短期大学附属第一幼稚園が存在する地である。同園の開設は1885（明治19年）、米国北部プロテスタントのミッショナリーから派遣されたミス ポートルによる。それ以来、主に北米大陸のさまざまなミッショナリーから派遣された教育宣教師によって、プロテスタント系の保育施設は、日本の各地にそれぞれ互いに連絡をとりあうことなく設立されていった。

1906年に至って、それまで同一教派以外には特別な連絡もなく日本の各地に点在していたキリスト教幼稚園に、ミッショナリーの違いを超えて連帯する連盟が結成された。The Kindergarten Union of Japan（通称JKU）である。音頭をとったのは1887年来日以来、神戸に頌栄幼稚園および頌栄保母伝習所を創設して、日本における幼児教育の普及に精力的に取り組んできたミス ハウ（Miss A. L. Howe, 1852-1943）であった。

JKUは、毎夏、軽井沢で研修・報告会を催し、その時の記録は年報として発行された。また、JKUは翌1907年には米国に本部を設けていた万国幼稚園連盟（The International Kindergarten Union）に加盟を認められ、年報はそこにも送付された。そして日本人には知られなかったが日本の保育事情の一端を世界に発信した。同時にJKUは、世界の新しい保育動向や保育実践の新知識を日本に持ち込む最先端でもあった。しかし、日本のファシズム化による国際関係の急速な悪化が大いに影響したと思われるが、JKUは1939年にその活動を終えて、後事を1929年から発足していた日本人キリスト教保育者によるキリスト教保育連盟に託したのだった。

本稿は、1999年に本学共同研究助成金を得て、福井県のキリスト教保育の第一線を退かれた保育者の方々に、ご自分の受けた保育者養成や現役当時の保育をお伺いした記録である。北陸地方の今後のキリスト教保育を展望するために歴史を振り返ろうとした時、先行研究がなく資料的にも個々の幼稚園の年誌があるという程度であってこの地方全体を見渡して知ることができなかった。そこで北陸地方全体のキリスト教保育史を知るために共同研究をお願いした。幸いなことに、福井県については栄冠幼稚園上垣信子園長の精力的なご協力を得て、現存するキリスト教幼稚園の殆どを訪問することができた。ただし、小浜市については残念ながらまだ訪問できていない。

訪問した先輩の方々のお話は、時代的には1930年代からの証言であって戦後の保育に関する話が

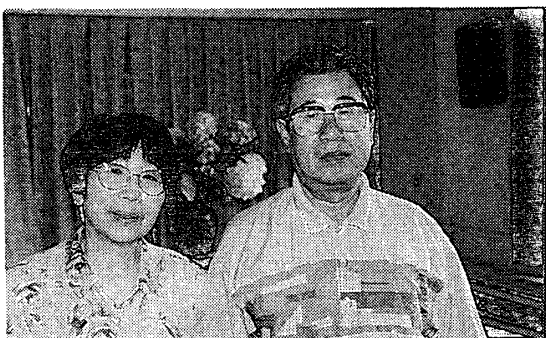
児玉衣子・菅原 創・上垣信子

主である。しかし現在のところ、北陸地方のキリスト教保育史に関する資料の発掘自体があまり進んでいない状況なので、本稿に取り上げる方々のお話と時代の隔たりがあろうともJKU年報に記録のあるものは、それについても触れることにした。また、園誌が出されている場合には、その旨を記して調べる場合の参考に資するようにした。

執筆分担について、栄冠幼稚園、城之橋幼稚園、緑幼稚園および附記の「福井県のキリスト教保育史」については上垣が執筆し、旭幼稚園、敦賀幼稚園、恩恵幼稚園、仏教幼稚園二園および現存しない幼稚園については児玉が執筆し、聖三一幼稚園については菅原が執筆した。また、幼稚園は五十音順にさせていただいた。

最後に、栄冠幼稚園の項の広瀬和子先生が2000年12月19日に逝去された。本稿をご生前に見ていただけなかったことを申し訳なく思う。謹んでご霊前に本稿をお捧げしたい。

#### 学校法人頌恵学園 旭幼稚園



所在地：大野市本町10-7

創立者：カナダ メソジスト合同教会宣教師団

創立：1919(大正8)年4月

話者：谷口 繁園長および谷口百合子主任(夫人)。

資料：旭幼稚園を含めて、学校法人の私立幼稚園については、福井県私立学校連合会設立四十周年記念誌『福井県の私学』(福井県私立学校連合会刊、1990、平成3年)がある。

#### 沿革

JKU年報では15号(1921)に初めて園報告が見られる。報告者は園長であり設立者でもあるMrs. C. P. Holmsである。「幼稚園開設を計画して聖書講義所を改修した時、仏教側は直ちに町中の子どもを勧誘して幼稚園を開いた。私たちの幼稚園には30名以上の子どもがいて、これはほぼ定数に近い」と記されている。最初から好悪さまざまに注目されていた様子が窺われる。

JKU年報16号(1922)には、園長が休暇帰国のためこの年の春からMiss M. Staplesに交代し、保母にはMrs. 村山およびMiss Moriが報告されている。園児数35名。保育料は毎月50銭である。この幼稚園報告には、福井4園(栄冠、緑、敦賀、旭)の教師たちが毎月最後の土曜日に集まり、聖書のお話の練習に加えてゲーム、歌を歌うなどして研修と親睦を深める集いが開始され、この会が保母たちに、彼女たちの取り囲まれている反対に対峙する気持ちを用意する機会ともなっていると述べられている。

なお、北陸部会は、JKU10周年にあたる1915年秋から各地で始まった地方部会の一環として、1916年から開始されている。

現谷口繁園長、百合子主任ご夫妻のお話によると、仏教の強い土地であるが、昭和初期には日蓮宗の寺から息子を預けられたこともあるという(1927年卒園)。仏教が強く根づいた土地であることは上掲記事からも窺われるが、同時に最初から園児数に恵まれ、また後述記事にも出てくるよう

に、定数あるいはそれ以上の園児にさえ恵まれて存続してきた土地でもある。

仏教の強く根づいている土地で、保育はどのように行なわれてきたのだろうか。百合子主任の母堂で先頃逝去された谷口はるの前園長についてのお話ともども伺った。

谷口はるの氏（はの字は「者」の草書体、通称はるこ先生）について

谷口はるの氏は1893（明治26）生。宮城学院および共立女子神学校卒業。1941（昭和16）年に夫の谷口義雄牧師とともに北海道、余市から大野に着任。同時に48歳で旭幼稚園園長に就任。それ以前に既に福島および余市に幼稚園を創設しておられた。1992年3月に99歳で引退するまで現役で働かれた。1999年4月16日逝去。106歳。筆者達が、最初に訪問したいがお話を伺えるだろうかと話していた矢先の逝去だった。

大野に着任直後にカナダミッシヨナリー引き揚げ（国策として友好国ドイツ、イタリア以外の国、特に在日敵性国人に帰国を強制した）に伴う幼稚園存続問題が起きた。この時、カナダ側からは「牧師の明日の命もわからない状況だから」と廃止の意向も出たようだが、はるこ先生が「明日の命は誰でもわからない」といわれ、それで存続が決まったという。

戦時中には、皇国思想との違いに悩まれたらしい。皇国思想とは天皇を現人神（あらひとがみ、人間として現れている神）として日本を皇国（神の国）と考え、国民一人ひとり天皇の赤子（せきし、天皇を親とする赤ん坊）であるとする日本独自の宗教家族主義的国家思想であるが、軍国主義、ファシズムと結びついて狂信化していった。そして、それは1911年に東京、大阪に最初に設置された思想検挙専門の特別高等警察の活動の拡大、積極化とも連動していた。

キリスト教関係機関は、思想的に常に国家忠誠を疑われる存在であった。だからキリスト教保育連盟においても気を遣ったのだろう、家庭訪問の際には、戦況の出ている新聞を持参するようという指導があったという。しかし、はるこ先生はそれをしなかったという。

しかし、戦時中にもかかわらず、園児数は引き受けた時には30名位だったのが増加して70名位までなったそうである。この間、園児の親から「お祈りはいいけれど、保育日の変更を」という希望が出て、それまで日曜を登園日、月曜を休園日としていたのを、日曜登園をやめて月曜を保育日とし、以降、現在に至っているという。戦争中にもかかわらず、またキリスト教系である旭幼稚園のこの盛況に、急遽、仏教系の旭幼稚園がつくられたという。

研究熱心で環境に工夫し、栄冠幼稚園で行なわれる研究会（現在も片道約一時間）に熱心に通われたという。

谷口百合子主任・牧師夫人のお話

谷口百合子氏は、小学校6年生の時、父親の赴任に伴い余市から当地着。終戦時には女学校3年生だった。進学については、澁刺とした雰囲気に惹かれて男女共学の青年師範学校に入学したが、

児玉衣子・菅原 創・上垣信子

1年後に新設の福井大学短期大学部に入学。卒業とともに教育学部（4年制）に編入学。卒業と同時に（1950年4月）、旭幼稚園に就職して現在に至る。ご自分では卒業後幼稚園に勤めることをごく自然に思っていたが、当時、福井大学の教官の間の話題になったようだという。

百合子氏が、はるこ園長の保育を継続しつつ基本に考えたことは、第一に昔のいいものを残していきたい、第二に地域の要求を判断して取り入れていく、という2点であるという。

この具体化として例えば、①子どもは地域の中で生活していることを祭りの時に実感したので、園内の軽いハシゴを提供し、子どもはお神輿にして遊んだ。この遊びは発展して運動会にも取り入れられた。②運動会も、子どもが他で見てきて走り始めたのがきっかけで、はるこ先生の反対もなかったので取り入れた。はるこ園長時代には遊戯会であった。③保護者の保育参観も、保護者から希望が出て百合子氏が踏み切った。はるこ先生は「見れば子どもの様子を親がわかるだろう」と判断されたという。ただし、参観後の家庭での親の不用意な言葉や質問が子どもと教師との信頼関係を断ち切る場合もあるので、個人面談の時に親に注意したという。

百合子氏の2点の基本線は、お話を伺っていると園の戦前からの伝統にもあるようだ。例えば、1932年5月撮影の写真には、上海事変出征軍人遺族慰安会に出演の園児のお遊戯が見られた。

園では15年ほど前から現在に至るまで、意図的に週一回、4歳児と5歳児とを交流させるために縦割りにしている。3歳児を入れたところ、5歳児に圧倒されたらしくちりぼり自分たちの部屋に帰ってしまい、結局、現在の形になっているという。それでも全員で園外に出かける時には5歳児に3歳児の手をひかせて、異年齢交流を図っているそうである。

#### 筆者後記

旭幼稚園には現在も遊ばれている使い込まれた恩物（バラバラにして一括して箱に入っている）、恩物を見本に少し長くした竹棒などがある。傷なく、しかもよくよく使い込まれた木の艶は、子どもの遊ぶ姿を彷彿とさせるとともに、保育者のそれらへの思いをも窺わせて実に豊かな印象を与えた。百合子氏も余市の幼稚園で恩物を使った記憶があるという。JKU年報16号（1922）には、北陸部会において金沢のミスライザーと福井のミスステープルスとが各々モンテッソーリ教具とフレーベル恩物について有益な講義を行なったと記されている。後任の谷口はるこ園長に受け継がれ、さらに現在も遊ばれているという歴史をもつ恩物は、冬には雪深い土地の高い窓の建物とも相まって、仏教の地に着実に歴史を重ねてきた幼稚園の伝統を感じさせた。

学校法人福井栄冠学園 栄冠幼稚園



所在地：福井市大手3丁目15番16号

創立者：ヘニガー宣教師夫人

創立：1908年。県内最初の私立幼稚園である。

カナダ・メソジストによる福井伝道の本拠地。1941年引き揚げまで、幼児教育の中心的役割を担った。1988年3月、学校法人化。

1990年2月、教会、牧師館、園舎を新築。

お話を聞いた人：広瀬和子・古市憲子元教諭

資料：『かみさまありがとう』（創立75周年誌）

『揺るがぬ礎』（福井神明教会90周年誌）

J K U年報から

栄冠幼稚園の記録は第4号(1910年)から写真付きで記されている。Mrs. Henningerによって創立。開園時に定員20名を充たしたことが記されていると共に、この園がこの街で永久に、重要な、あらゆる所まで至る影響を及ぼしたいという願いが書かれている。第5号(1911)になると母の会活動が紹介され、ここでは講話に先立ち、料理、縫い物等を行うと遅刻の気まずさがなくなって和やかになり、出席率が良い事が報告されている。園長は、Mrs. Howe(7号)、Mrs. Holmes(9号～15号)、Miss Staples(16号)、Miss Gillespie(21、23号)等の名前が見出される。なお、創立時の保姆として Miss 中島(公立の東京伝習所出身の有資格者)が挙げられている。保育料は17号(1923)当時、月1円である。福永津義の長女(高橋さやか)の童話に「教会の人達は、この町の誰もが当たり前のこととと思ってしてきた暮らし方と、全く違う変わった暮らし方を平気です。」とあるが、キリスト教への偏見が強かった時代に節制(禁酒)が園児を通じて家庭に伝えられたり(15、23号)、子ども自身にもひなまつの白酒を飲まないように注意(23号)したことは、家庭への働きかけを如何に大事にしたかということである。健康教育(眼疾への注意19号)、聖句暗誦(23号)等への言及も見出されると共に16号には、北陸部会としてこの1年間の主題が節制および世界平和であって2園から報告がなされている。時代を先取りして保育の背後にある、社会・文化の問題を考えていたことが察せられる。同年5月の北陸部会研修会で、Miss Staples が、手技と恩物の講演(『キ保百年史』p.262)を行っている。日常の保育に生かす確かな技能をも身に付けつつ歩んでいた。

広瀬和子先生のお話

「福井神明教会にあった英語学校に惹かれて通ううち求道するようになった。1948年3月女学校卒業。4月からヘルパーで保育に入った。そこへ、大震災が起こり、米軍兵舎を貰って使っていた会堂も仮園舎も全て焼失。震災記念館が教会内に建てられ、多くの人々が入り出すなど、大変な時期だった。幼稚園の再開後も勤めていると、似田貝小子家門牧師と幸子夫人が太郎と花子と言う

児玉衣子・菅原 創・上垣信子

名の鶏を連れて東京から赴任された。牧師は竹原主任教諭が出産間近である事、西脇先生も結婚で退職される事、また、かつて栄冠で協力宣教師として働いていたミス・ローク（\*）が戦後再来日し、東洋英和短大に居られるから、進学するようにと古市先生と自分に勧められた。自分だけが決断して、教会から祈られ送り出されて短大・保育科の1期生になった。卒業すると早速4月から主任を命ぜられた。仕事一筋で晩婚だったが子どもも与えられた。が、単身、教会の近くに下宿し、月に2回、婚家先の大野へ帰るパターンを続けて37年間勤務。姑の介護の為、1989年3月退職した。帰宅する時は、土曜日の夕方バスで大野へ帰り、日曜日の夕拝に間にあうバスで福井へ戻った。教会では毎月、朝拝2回、夕拝2回の奏楽を担当し教会学校幼稚科の教師をずっと続けた。」と語られた。

筆者は1年間、先生の働きに接したが、先生は幼稚園教師が礼拝を欠席すると翌朝、理由を聞き次回は休まないようこまめに声をかけ、教会掃除や冬の雪かきはいつでも教師がするもの、教会に仕えるのが当然という主任だった。しかも、自分が率先して仕事をこなされ、どの先生への配慮も行き届いている上に、きびきびとしていて驚いた。

\*1951年末現在の幼稚園教員養成機関中の短期大学は9校であるが、そのうち7校はキリスト教主義学校であった。東洋英和女学院短期大学は、Luella M. Rorke が短大設立に尽力して、1950年保育科の短大として出発した。（『キ保百年史』P. 323）

養成校での教育

「東洋英和短大では1学年40数名。都内の学生と地方出身学生と半々。全寮制。付属園では見学実習が多かったがミス・スクルトンが保育実習などを指導された。ミス・キュックリヒ、ミス・ローク、佐藤初重、長野静江先生等。学生は半数が午前中実習園に行き、午後学校に戻って授業を受けた。自分は安藤記念幼稚園と柿の木坂幼稚園で実習。佐藤先生と長野先生が柿の木坂に居られて、佐藤先生はけじめを厳しくすることを、長野先生は基本リズムをピアノで{歩く、走る、スウイング、ギャロップ、ジャンプ}等教えられた。絵の指導は自然界が手本。空き箱製作で創造性の育ちを図ることを知った。聖書は野辺地天馬先生から教わった。クリスマスには先生方が寮生を宣教師館に招いて下さった。日曜日は学校に近い鳥居坂教会に通い教会学校小学科1～2年を熊野花子伝道師（似田貝夫人と青学で同期）の指導で2年間担任した」とのこと。広瀬先生のこの2年間の進学は、その後とても大きな意味をもった。戦後、婦人宣教師がいなくなり、牧師が園長を兼務することになって一番困った事は幼稚園教師を現場で教育できる人がいなくなった事だった。しかし、辺鄙な北陸で、戦災と震災のダブルパンチを受けた教会から送り出された一人の女性を、短大と、その短大で教えていた佐藤・長野両先生が実際に子どもを前にして熱心に保育されている幼稚園で実践させて、理論と実践の両方から受け止め、教育して下さいましたこと。更に再来日した婦人宣教師達が自分も同僚宣教師たちも働いた各地方の幼稚園から、広瀬先生のように学びに来た次代を担う日本人保育者を、深い喜びの中で迎え育ててくれたこと。そして、最大の事は、「教会生活が大きかった」と先生が述懐されるように、広瀬先生の素晴らしさである、あの保育の明るさは、若い日に教会で培われたキリスト教信仰の本質から溢れ出て来たものだと思う。恰も教会から委託された人は責任をもって教育し教会へ派遣するような中味の濃い保育者養成だったからだと思う。

### 広瀬先生の保育と歴代園長先生

「アバコ創設の頃、写真好きの似田貝園長は幻燈一式を買い込んで聖書物語や童話を見せられた。また、同園長は自然物を子どもに与えねばならないという信念から、園庭に池を2つ作り、1つには、赤い橋を架け竿も立てた。魚も放ち、岸にベニヤ板で大きなノアの箱舟を作って『栄冠丸』と命名された。春は鯉のぼりが竿にはためき、廊下の角々には花を飾られ、庭に築山を作って多くの木を植えられた。その為運動会は出来なくなり、足羽山で行なった。大変だったが楽しかった。

重い椅子を毎回動かして礼拝堂をホールに使った。子どもにとって楽しい環境にしたいと壁面を飾ったが、当時は押しピンがなく、虫ピンしか無かったので、使いにくかった。また、土曜日には毎回、取り外し、礼拝の邪魔にならぬよう気をつけた。

玩具は手作りした。ブリキ缶、屑鉄等が大事に売り買いされた時代だが、お母さん達に頼んでミルク缶、ミシン糸のコマ、かまぼこ板、織物工場から織り糸のコマ（芯）などを貰って子ども達を楽しませた。母親との協力は子どもが生き生きする土台だと感じた。

教材も手製でよく作った。古市先生と紙芝居『こぐまのシャッポ』を作ったりもした。聖書は教材なんていうともったいないが素晴らしい教材だと思う。信仰をもって素話ができることが大切である。子どもも聖書のお話を聞くのが大好き！毎週1回全員で合同礼拝を行い子どもが献金を献げた。それを教会へ献げた。小さな手も神様の御用のお手伝いができると丁寧に指導した。

昭和28年頃からの子どもが多い時期は250人位だった。年長65～70人を1クラスとして1人で担任。2クラスあった。この頃から3年保育の希望が少しずつ増え始めた。ウイン幼稚園に学びに行ったりもして準備をしたが初めは数名で2年保育と一緒にした。希望者が15～6名になって初めて1クラス作った。数年後、福井大学付属幼稚園が実施する時しばらく実習に来られた。

当園は県庁や市役所がすぐ近くに位置するため、当時とは言え、子ども達はかなり交通量のあるところを通って来ていたが、昭和31年9月29日園児の満理子ちゃんが登園中に交通事故で亡くなった。そこで、市バスを2台チャーターし先生が毎朝JR福井駅迄行ってバスに添乗した。11年後には、母の会が園バス購入をとニーズがあったので応え、園長が『マザー号』と名付けての県内最初のバス導入が実現した。

似田貝園長が22年の在任を終えられた後、三井園長が着任。園庭の桜の木を伐って、運動会をできるようにされた。1970年、夜に父の会を開き好評だった。ベビーブームが去り、一人ひとりを大切に保育、形でなく中味が大切だと園長も言われて、心の強い子どもに育てようと努めた。

無牧の時期もあって1978年、疋田園長が赴任された。先生は幼稚園がお好きだった。体力作りをと裸保育を取り入れ、上半身はだかで園の周囲をランニングした。また、庭全体で泥遊びをするようになり子どもが大きく変わった。子どもには“泥んこパンツ”を持ってこさせて、それをはくと何をしていても良いというようにした。外部から英会話の先生に来て貰っての外注保育もした。福井大学の吉沢正尹先生から教師が毎週、幼児体育の指導を受けたりして勉強するうち、スイミングを勧められ1981年から民間スイミング教室へ子どもを連れていくようになった。」という。

広瀬先生のゲームは対象の年齢を問わず皆を湧かして惹きつける。強弱、緩急のリズムの絶妙な

児玉衣子・菅原 創・上垣信子

変化が心地よい。グリーンボードや製作は創意に満ちていた。今でもお孫さんの入園で来られた卒業生の母親が「息子が大学に合格した時、おめでとうのお便りを下さって」等とおっしゃる。卒業生の親子にいつまでも温かいエールを送っておられる。

古市憲子先生のお話

「1945年3月女学校を卒業し、挺身隊で勤労奉仕についていた。同年7月の福井大空襲の時は駅での勤労奉仕だった。防空壕に逃げた人は死に、自分は壕に入らず上級生と逃げたので助かった。教会には讚美歌に惹かれて出席するようになり求道中に赤阪牧師から竹原先生の助手が欲しいと頼まれて1947年11月から保育に関わり始めた。竹原先生にいろいろ教えて頂き、家庭訪問にも連れて行って貰った。幼稚園教諭の資格は玉川大学の通信教育や青山学院の夏期講習などで取得した。

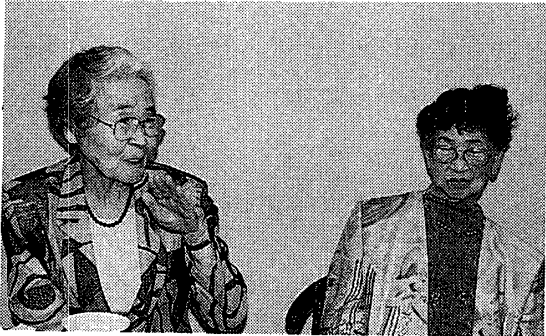
3歳児を担当する事が多かった。園庭や近くの公園で遊んだ。蜂の巣を見つけたり、木の葉を拾って転げまわったりしていた。自由な中にしている事としてはいけない事の区別をきちんとするようになった。友達やものを粗末にしないように気をつけた。」と淡々と語られた。

40年間勤務された。退職されてからもずっと教会学校の幼稚科教師を続けて下さっている。古市先生が聖話をして下さると、おしゃべりしていた子どもも皆シーンとして一心に聞く。静かな語り口が聞く者にイエスさまのお姿をしっかりと焼き付け、自分もイエスさまに愛されているのだな、と実感させる。どのように準備されるのかを伺うと、「クリスチャンでないと話せないと思っているの。自分で納得して初めて話せるので、1ヶ月前から準備にとりかかる。原稿を作って実際に話し、テープに吹き込んで何度も聞き、イメージしにくいところを直すの。」と、教えて貰ったが、この準備を50年続けることは、誰でもが出来ることではない。また、1979年の国際児童年に東京のTBSラジオが企画した「日本全国8時です。森田公一 子供たちのうた」に先生の詩が選ばれ、森田公一作曲 天地総子歌唱指導で当園から全国に実況放送された。その後“イエスさまいっしょに”と題を付け、園歌として愛唱している。どこの教会幼稚園でも歌える、“讚美歌”と言いたい程である。

卒業生の山谷えり子氏（現在、国会議員。サンケイリビング編集長）が日曜学校で、献金する振りをして、そっとそのお金をポケットにしまい込んでしまったとき、それを見ていた先生が、後で「えり子ちゃん、お金を貯めて、どうするの？」と聞かれたので、咄嗟に「病気で苦しんでいる人達のために花を買って病院に届けたいんです」と答えると、先生はニッコリ笑って「そうステキね」とおっしゃった。「先生は私が出まかせを言ったのをご存知だったのでしょ。けれど私を責めずニッコリ笑って受け入れて下さったのです。私は自分を恥じ、幼な心にも“まっとうに生きなくっちゃ。こんなステキな先生を裏切ったらいけない”と思ったものです。未だに【栄冠幼稚園】と聞いただけで、頭が上がりず、私の心に何やらあついものがこみあげてくるのは、この思い出のせいです。」と数年前、金沢で開かれた全日私幼の全国園長・設置者研修会の主題講演で話し、私立幼稚園の人格教育の尊さを園長たちに再確認された。こういう保育をされたのが古市先生である。



## 聖三一幼稚園



福井市宝永2丁目5-7 0776-22-3347

創立者：米国聖公会宣教師ミスC. R. パウエル女史

創立：昭和4年(1929)4月1日

福井市江戸下町19（現在の福井市春山1丁目4番）に創設された。

「聖三一幼稚園創立50年の歩み」を昭和55年12月25日発行。

### J KU年報より

聖三一幼稚園の園報告が出されているのは、26号（1932）のみである。報告者は C. R. Powell である。巻末の幼稚園リストに出るのもこの号からであって、園児数17名、月保育料1円50銭、園長他1名の日本人保母の名前が挙げられている。創立年月は書かれていない。

年報によると、この年に場所を移転し全く新しい子どもたちを受け入れたので、全般にプログラムをうまく行くようにするだけで手一杯だったという。しかし、園庭にはジャングルジムが入り、室内には「大きなパティ・ヒル積木」が備えられていて、遊びを大いに活性化していると報告されている。また、雨の多い地方であることを考慮して可能な限り外遊びをさせようとしている、まもなく毎朝ミルクを飲む休息を設ける予定である、日常の必要な健康の習慣を植えつけようとしている、等々の「健康教育」への配慮が語られている。また、礼拝は聖書のお話、讚美歌、語句の暗唱等から成り立っており、園児は日曜学校にもきちんと来ていると報告されている。

### 松濱貞子先生、吉田光子先生のお話し

#### 園の保育について

幼稚園教育要領に示された6領域の全てにキリスト教保育を反映させ、これを軸に保育を進めてきた。幼児の成長段階に即した総合的・体験的学習、つまり“遊び”を中心とした保育を進めてきた。遊びの中で子どもたちは様々なことを発見し、学び、成長していったと思う。

礼拝は、牧師と園長が週1回ずつ行い、子どもに話しをしていた。各クラスともピアノを使って保育しており、子ども讚美歌聖歌を使い「うるわしき朝」「主我を愛す」などを歌っていた。

福井大震災後の遊具に乏しかった時代にあっても、子どもたちは遊びに事欠かなかった。砂遊

児玉衣子・菅原 創・上垣信子

び・どろんこ遊び・水遊び、加えて冬は雪遊びの恵みがあった。

復興後、無からのスタートではあったが、母の会の講演会で柳城大学の坂東先生からいろいろご指導いただいた中で、「何がなくともまず広い砂場を」のおすすめがあり、限られた予算で砂場を作った。焼け残った園庭にはジャングルジム、回転スケートなど数基の遊具があった。また、3本あったイチョウの木のうち1本が焼け残り、その木から積木を作った。フレーベルの恩物のように、大工さんに寸法をそろえて切ってもらった。また、手作りの毛糸玉（フレーベルの恩物）が女兒のお気に入り、色々な遊びに発展していった。

### 「庭での遊び」

園舎の裏の広い庭は野草園のようであり、子どもたちにとっては恰好の遊び場となっていた。虫採り、草摘み、木の実拾い（クルミ、草の種）など、自然環境の中での遊びにも事欠かなかった。庭を走りまわるだけでも、子どもたちにとっては心はずむ冒険であったようだ。その他にも、水溜りで上げた傘を廻して遊んだり、ハンカチを水に浸して水が浸透していくのを観察したり、雪玉を投げて遊ぶなどの姿が見られた。

### 「小動物の飼育」

青虫（蝶）、オタマジャクシ、コオロギ、スズムシなど、短期間でその変化成長が顕著なものの飼育に取り組んでいた。

### 「園外保育」

子どもの足で30分ほどの距離にある教会に出かけての礼拝を行っていた。園内での礼拝とは違った特別な想いがあったのだろう。静かに聖書のお話を聞き、讚美した。教会への行き帰りの道は、交通ルールを体得する最適のチャンスでもあった。行きと帰りの道を替えることによって、歩道橋の上り下りも交通安全につながる一貫ともなり、また信号は教師が指示する前に子どもが子ども自身の目でとらえるよう、習慣づけた。

### 「放送教育の導入」（視聴覚教育）

福井地区では、当園と尾上幼稚園とが研究指定園となり、いち早く園生活の中に取り入れた。映像を受信することによって、直接体験が不可能な動植物の生態に接することができるようになり、またそれらの共存関係を知ることは、大きな感動へとつながった。子馬の誕生、蛙の孵化、サケの溯上等の様子を視聴することを通して、命の神秘、不思議を感じとった。また、何よりも「命」の大切さをしっかり感じとったのではないだろうか。視聴の時の子どもたちは真剣そのものであり、食い入るように見、画面の中の世界に同化して声援を送ったり、ほっとしたりもした。

### 「音楽リズム」

たのしく歌い、讚美し、またリズムにのって体を動かし、自由に表現することを大切にした。

### 「言語」

絵本の読み聞かせを多く取り入れることで子どもたちの夢、イメージをふくらませ、時にはそれが劇あそびへと発展し、楽しいものになった。

## 聞き書き 北陸地方のキリスト教保育史 (1)福井県

どの領域にあっても、「体験が育てる子どもの心を大切に」をモットーとして、幼児とともに歩んできたと思う。

### 田守静子先生のお話

田守先生は聖三一幼稚園に1969年4月から1998年までご勤務。北陸学院短期大学卒。勤め始めた頃は子どもの多かった時期で250人位。年長、年中は各3組、年少は1組、1組30-35人位の園児だった。お弁当日は週2回だった。

家庭との連携については、現在の方が連絡は密だが、以前の方が連携は密だったと感じる。例えばパンツを洗って帰すと手紙が返ってきた。お迎え時の立ち話が多かった等。今は送迎も車なので早く帰ってもらわなければならない。しかし、親は変化したか?と問われると根本的なものは変わらないと感じている。

保育については子どもが交わりの中でぶつかることは大事で、失敗しても立直れる子になってほしいと思って保育をしてきた。

園としての取り組みでは、放送教育については前出通り。その他、福井県最初の障害児クラスつくし組を作って子どもを受け入れた。尤も障害児受け入れはつくし組を作る以前から行っていた。この後、他園でも障害児の受け入れが始まった。

### 学校法人福井<sup>じょうのほし</sup>城之橋学園 城之橋幼稚園



所在地：福井市日之出3丁目3-16

創立者：アダ・キラム

創 立：1927年カナダ・メソジスト教会婦人伝道団  
によって福井市豊島上町に創立。道路拡張  
により1934年現在地に移転。戦災で園舎を  
焼失し1945年より休園。日キ教団城之橋教  
会附属城之橋幼稚園として1951年再開。  
1999年学校法人化。

お話を聞いた人：竹原真佐・中村滋子元教諭

資 料：『福井県の私学』

### J K U年報から

J K U年報に城之橋幼稚園の報告が出ているのは23号(1929)のみで、報告者はA. Killam。創立1927年、園児数30名、月保育料1円50銭。保育に関して、毎月、月刊予定が家庭に送られこれが母の会の内容予告や家庭訪問時に活用されている様子が述べられている。また、健康教育への取り組みとして、歌の影響で水風呂に入る家庭が出てきたことや、園での牛乳の取り入れが子どもに好結果をもたらして家庭に喜ばれていること等が報告されている。25号(1931)までは各号巻末の幼稚

児玉衣子・菅原 創・上垣信子

園リストによると、園長は Miss Killam であるが、26号(1932)から最終年報である28号(1935)では、Miss Rorke に代わっている。Rorke は『来日メソジスト宣教師辞典』によると福井在任は1941年迄である。日本メソジスト‘教団’では1935年の総会以来、戦況悪化の非常事態が到来するのを予測し、婦人宣教師が園長をする伝統をどのように引き継ぐかを議していたが、1938年には長野の梅花幼稚園で、園長が町の人々の圧力で辞職させられ、園児が退園を迫られた記事が新聞に掲載され、他の地方都市でも同様の事が相次いでいる。このような中で、宣教師達は急遽総引き揚げとなってしまう、幼稚園はミッションの経済的支援打ち切りだけでなく、幼児教育と保姆養成の両面で専門家であった婦人宣教師に代わりうる人材を得ることが大問題であった筈なのだが、時勢は宣教の専門家たる牧師が園長をも担わざるを得なくなってしまう、城之橋幼稚園も日本メソジスト城之橋教会の手に運営が委ねられ、牧師が園長を兼務することになった。

竹原真佐先生のお話

1915年生。2～3歳から両親と共にメソジストの七尾教会に通い、女学校卒業後、羽咋白百合幼稚園を手伝う。十四番館(現清泉)幼稚園のミス、レディアードから勧められ東洋英和女学校幼稚園師範科に進学。卒業後は白銀幼稚園に就職。次いで羽咋白百合幼稚園主任。牧師と結婚して富山の現アームストロング青葉幼稚園に再就職。空襲により同幼稚園が焼失。夫と福井市に転居。敦賀教会幼稚園に単身赴任し、幼稚園の一室に住んで週末帰宅していたが、今度は福井空襲。

この後、自然休園していた栄冠幼稚園から復興協力を依頼され、荒れ果てた瓦礫の町で準備に奔走された。1年後の1947年5月、教会堂兼牧師館兼幼稚園舎であったバラックの一室で赤阪牧師園長と保育を再開したのも束の間、翌年の6月には福井大震災により全てを焼失。しかし、賀川豊彦氏らの尽力で震災記念館が完成し、9月には何とか幼稚園を再開。1949年7月、出産のため辞任ということを書き込んでお聞きした。あの戦後の混乱時には誰もが自分の生活だけで、もう充分大変だったのに、それをさて置いて、再建された御苦労は、恐らく創立時の苦労に劣らぬものがあったに違いない。震災の後に、牧師の辞任もあり、竹原先生抜きには栄冠幼稚園の復興はどうなっていたかと思う。そして、翌年9月には城之橋幼稚園の再開準備を依頼されてこれをも再開。以後30年間、主任を務められ65歳を機に退職された。

東洋英和では、Miss Lehman から「I see you, You see me」や、フオークダンス、また、♪How do you do, my partner, How do you do, today, with me in the circle, I'll show you the way. ♪「パチパチおじぎ」「出して引っ込めてタンタンタン」や、指遊びの「父さん父さんどこにいます」等を、福島先生からは聖書のお話の語り方や童話の作り方を、長野先生からは子どもの作品や廃物を上手に生かして構成するグリーンボールドを教えられた。

城之橋幼稚園の前に、栄冠幼稚園の再開に尽力された事を記したが、物資においてはまさに0に等しい出発の当時、入園を申し込んで来られたお母様に「残念ですが、子どもの椅子がもう1つもご

「ごめんなさい」とお断りしたら「椅子でしたら家のものを持ってまいりますから」と熱心に頼まれ、椅子ご持参で入園されたことがあったという。幼稚園の設置目標のキリスト教精神も、定められた設置基準も全く無視した珍問答！それにしても、折角この園にと選んで来られたのに、椅子1つのことで、簡単に平気で断ろうとした不信仰な自分を反省して、城之橋幼稚園では希望者を全てお入れしたと頭を掻きながら、恥ずかしそうに語られた。城之橋幼稚園の再開時に備えた物は三輪車、オルガン1つ、恩物(毛糸で手まりを編んで第一恩物を作った。何かにつけよく使った。)キンダーブック、絵本(国内はもとより、米国からも寄付され、整理に追われたが、工作などにも使った。)ボール、縄跳び(1人ひとりの子供に合わせて切った)など。箱積み木はなかったが、絵はイーゼルを出して置いて描きたい子が粉絵の具で描けるようにされた。ゲームでは、輪になり真中に鬼が目隠しをして座り、周囲は「今は高い、今は低い、高い、低い、今どちら」と歌って当てさせるものなどはとても喜んだと言う。ベビーブームのあおりを受けて、年長児が1クラス90人、年中児が30人、全体で200人を超えてしまい、建物に比して園児が多かったので、体の衝突が多く、部屋の真中に衝立を立てたり、トイレの混雑緩和の為、トイレタイムを保育者間で事前に決めたりされた。小さな教会兼園舎ながらも楽しく遊べるように、大抵、二重の円陣を組んで、子どもが大好きなスキップなどもした由。保育参観は、男児の親だけ、女児の親だけ、〇〇町だけ、等に分けて来てもらった。牧師園長先生は毎日では来れないので、連絡簿を作って園児の動静、園生活を出来るだけ詳しく報せる工夫をされたという。どんな事態も“仕方が無い”と諦めるのではなく“仕方は有る”と子ども達の為に困難を乗り越えられたのだらうと思う。親も子も遠距離でも徒歩通園していたことを挙げられ「当時は親も子も元気でした！」と、闊達に語って下さった。

#### 中村滋子先生のお話

先生は北陸学院短期大学でライザー先生やデーター先生から、教師は感動と思索の生活をすべきだと教わったり、熊野先生から、石浦神社へ連れて行かれ、モリアオガエルの産卵を見せて貰い幼児には知識でなく実物教育が大切だと教わったりされたと言う。

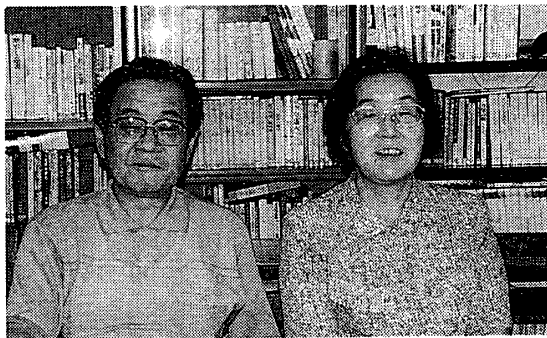
短大で初めてキリスト教に触れられたが、毎日曜日朝、南先生が学長室で聖書の入門講座をして下さり出席。その足で先生に勧められた金沢教会に通われ、敦賀教会に就職後受洗。敦賀教会幼稚園では、住み込みだった由。城之橋幼稚園に1964年から1999年まで(8年間は育児の為退職)勤務され、主任を竹原先生から引き継がれた。

園庭が無かったが隣の公園に砂場、藤棚、樹木を寄付して使わせて貰えるようになりやっと自然が身近になった由、知識を教える早教育が流行り出した時は、父母の理解を得ながらクラス解体を実施し、子どもが自由だと感じる中でこそ自由な発想が育つと信じて保育されたと言う。子ども達には自然に出会って欲しいと川、城跡、白鷺群生地、鴨池などへ行き「何か見つけておいで」と放り投げると、自ら感動し面白い表現を持って帰って来る。それに共感する保育を心がけられたという。中村先生は、体育遊び、絵画制作の指導にも秀でたものをもっておられる。

### 筆者後記

竹原先生は、退職されてから、週報の点訳奉仕と、説教をテープにとって活字にし、牧師が校閲後、印刷して新来者や欠席者に配るということを毎週続けてして居られる、という事と「子どもと共に遊び子どもと一緒に生活して子どもの目線を常に考える方。生き方の軸足をいつも神様のところに置かれているので、私が若かった時はうっとうしく感じられた事もありましたが、先生が退職されてから日毎に理解できるようになりました。」という2つの事を、中村先生から初めてお聞きした。先生が保育の問題を抱えつつ礼拝に出席し、子どもへの思いを深められた長い教会生活の真実を人々にも伝えたいと思っておられるお心が筆者にも伝わって来る。また、先生は、私達が「作り出してきた社会の在り方に対して問を投げかける」(改定キリスト教保育指針 p. 10) ことも大事にして来られた。教会関係の研修会などには、80歳の今も出席される。子どもと子どもの育つ園や家庭は地域社会や世界の在り方から影響を受ける事を解りながら、時流に流されがちな筆者たちも、保育者として大人として、自覚的に生き方や価値観を問い直さねばならないのではないかと思う。

### 学校法人栄光学園 敦賀教会幼稚園



敦賀市本町2丁目2-25

創 立：1915年4月、カナダミッションのホームズ宣教師を中心に敦賀初の幼稚園として富貴町に「日本メソヂスト富貴幼稚園」が誕生したが、休園。1918年に「日本メソヂスト敦賀幼稚園」として再開。1945年戦災のため休園。1946年「私立敦賀幼稚園」として再開。1953年「私立敦賀基督幼稚園」、1966年「敦賀教会幼稚園」と改称して現在に至る。1978年学校法人化。

話し手：中島信義園長、百合子主任（夫人）

園誌等：『日本キリスト教団敦賀教会70年略史、敦賀教会幼稚園60年略史』昭和53年、1978。

『福井県の私学』平成3年、1981。

### 沿革 JKU年報から

敦賀幼稚園が年報に報告されるのは15号（1921、大正10年）から、緑幼稚園、旭幼稚園と同時である。報告者は設立者でもある Mrs. C. P. Holmes であって、栄冠幼稚園と合計4園の報告がされている。そして翌年には4園の園長が Miss Staples に引き継がれる。16号巻末の幼稚園リストによると創立1917年、園児数25名、日本人教師2名、月保育料1円となっている。19号（1925）になると園長は再び Mrs. Holmes に戻り、25号（1931）に至っている。なお、Miss Staples の消息は、21号によると東京、鳥居坂在住 になっている。

15号には、母親達に社会改良精神がある、彼女たちは子どもの食前の祈りや食事が良い雰囲気が進められるようになったことを評価している、教師は園児家庭と教会礼拝とをつなぎ、素晴らしい働きをしている、等が述べられている。

16号になると各園報告はないが、月1回、4園教師研修会が開始され成果を挙げていることが報告される(旭幼稚園の項参照)。

中島信義園長、百合子主任にお話を伺う

### 園児数、3歳児保育

中島園長の着任は昭和58(1983)年である。当時、3歳児は30名×1クラス、4歳児は40名×2クラス、5歳児は40名×2クラス、計190名定員という構成だった。街の人にも「3才から」という意識は強くなかった。その後、3歳児保育の希望が増え、現在、定員数は同じだが内訳は3歳児は30名×2クラス、4歳児は30名×2クラス、5歳児は35名×2クラスである。しかし、近隣の私立幼稚園では4歳と5歳、公立園では5歳が基本で希望者は4歳からである。尤も4歳からの保育希望は次第に増加しているという。

3歳児のためにトイレと椅子は年少サイズにしており、積木も別に用意。戸棚は他年令児と同じサイズにしている。

現在、園バスを運行している。きっかけは降園時の混雑が激しかったためである。

園にはいろいろな動物がいる。10歳になるコリー犬は、4月には一緒に保育をしてくれるという。金魚は13、4年前から居て、夜店で買ったものだという。庭には鴨、兎がいる。子どもたちはパンの耳や野菜、それも立派なキャベツまで持ってくるそうである。動物の世話は、子どもの感性の育ちにも大切だからという話であったが、まず園長ご夫妻がお好きである。それが子どもたちに感化を及ぼしているという気が筆者にはした。

毎年、バザーを行なうが、これは絵本類購入のために絵本は本園唯一の贅沢だとの話である。絵本および本を読む活動は盛んで、教師が子どもに読みきかせをするのは勿論、教師の中での読みきかせ会もあるという。また、母の会にも絵本を読む会があるという。夏休み中も貸し出しは自由で朝9時から11時30分に行なっていて1室を開放しているそうである。

廊下の用材について、以前はラワン材だったのを花梨材に替えたそうである。耐用年数の加減もあっただろうが、それにしても材木の緻密さ、足触り、安全性等どれをとっても花梨材の方が数等優れていることは自明であるものの、どこの園でも踏み切れるわけでもない。中島園長の子どもの育ちへのひとつの信念を見せていただいた気がした。

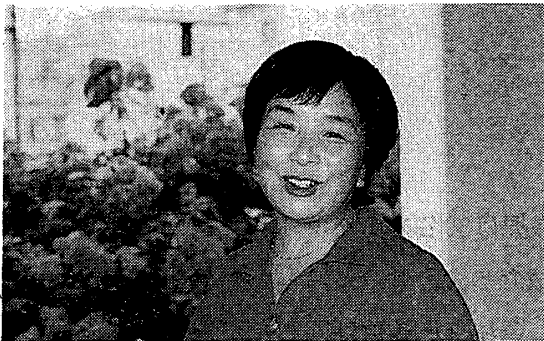
### 筆者後記

園に入ると、いろいろな動物が、いかにも我がもの顔に、いろいろな場所にいた。その屈託ない様子が園の雰囲気を語っていた。そして、廊下の用材の話をして、子どもにとっての自然環境、

児玉衣子・菅原 創・上垣信子

気づかないうちに五感や感性を育てられる環境それ自体への配慮等、さまざまなことを感じさせられた。それらはすべて、とりたてて子どもに意識化されはしない。しかし、確実に積極的に子どもの能動的な育ちに関わっていた。

#### 学校法人丸岡栄光学園 緑幼稚園



所在地：坂井郡丸岡町霞町1丁目5番地

創立者：C. P. Holmes 宣教師

創 立：1918年。日本メソジスト丸岡教会の水野琢成牧師の要望で設立。1922年から婦人宣教師達が派遣され活躍した。戦時中から大震災までは一時町営化。1985年学校法人化。1988年3月園舎新築。

お話を聞いた人：酒井む津子副園長

資 料：『ありがとう かみさま』（緑幼稚園65周年誌）丸岡教会小史（2000年5月作成）

#### J KU年報から

緑幼稚園の記事は15号(1921)からである。報告者は創立者の Mrs. C. P. Holmes で「丸岡は多年、キリスト教伝道の発展しない町だ。私達は5年前、9人の園児で幼稚園を始めた。間もなく25人になった。しかし、建物が小さいので、入園希望者全員を受け入れる事が出来ない」と述べられている。そして町全体の空気がキリスト教に対して変化してきており、日曜学校及び、幼稚園の会合は大変人気があるとも報告され、幼稚園をきっかけにキリスト教に対する町の雰囲気の変化し始めた様子が汲み取れる。19号になると園児の年間平均出席が23名になり、教師と園児との信頼関係の表れとされている。また、19号巻末リストによると創立時の月保育料は50銭と記載されている。

#### 酒井む津子先生のお話

先生は1964年、北陸学院短期大学を卒業。城之橋幼稚園に就職。同級生の殆どと同様に住み込み。1年後、緑幼稚園に移動。育児期も引き続いて勤務し現在まで36年間、丸岡町の子ども達の間人形成に尽くされている。

短大では、1学年40名。石引の寮で5～6人の寮生と生活したが、一階に番匠先生ご一家が居られてご自分達は二階だったが、食事は先生方と一緒に戴いていたという。授業では、データー先生から壁面製作を教わったが立体感のあるものを製作するようにとかなり厳しく指導され、製作後は学生全員での評価会があった。またクリスマス行事を大事にされ劇の演出も教えられたという。井幡星子先生からは一人ひとりのレベルに合った曲で教えられたことを感謝されている。聖書のお話は絵話、フランネルグラフ、大聖画、人形などを用いて話す方法を教えられた。[社会研究]とい



う科目では、1人ずつにテーマが与えられ、子どもにこういう事をどう教えるか、保育者は何を知っていなければならないかを自力で考え文章化した。それをガリ刷りの冊子にして下さったのでも見せて頂いた。飛行機、船、電車、歯、昼と夜、織物など。この科目はなかなか面白かったようだ。実習は前半が協力園、後半が附属園で、毎日午前中が幼稚園、午後が本多町の学校での講義だった。

緑幼稚園に酒井先生が来られた当時は、3～4歳児だけで、5歳になると公立幼稚園に転出する習わしになっていた。しかし、5年後には、園児数が30数名にまで落ち込んだので、5歳児保育の検討を始めた頃、保護者の中から「5歳児になったからと転園するのは申し訳ない」という声が出始めたので、保護者の方々に残って下さるようお願いをしてクラスを作った。ところが、町立との保育料格差（公立は、当時も今も大体5分の1以下の経費）が大きく、10年間位は5歳児が3名程度の在籍であったという。年中組の終わり頃に毎年、家庭訪問を行い、「公立に行く各保育園からの寄り集まりで1年が過ぎて仕舞うのに対して、当園で年長組に進級すれば、一貫保育の良さが生きる、これが大切だ。」と話して来たところ、保護者も「お祈りする事を覚えさせてください」と言われたりして、次第に、慣れた生活で育つことの大切さを認めて下さるようになった。保育方法も問い直し、少人数の5歳児を連れて、敦賀教会幼稚園、城之橋幼稚園、北陸学院短大附属第一幼稚園などへの“他園訪問”を遠足として試みたり、スケートに連れて行ったりした。今でも公立の安さや、小学校へスムーズに進学できるという事から、5歳になると、転園させる方もある。しかし、1988年3月、新園舎が完成してから、やっと5歳児クラスが定着して園運営が安定して来たという。

#### 筆者後記

緑幼稚園は、戦災に遭っていないが古い記録はない。冒頭のミセス・ホームズの報告にあるように丸岡では伝道が本当に難しいのか？ 宣教師達と日本人保姆が協力して、丸岡講義所内に幼稚園を開設し、伝道の進展を祈り労して、1927年には丸岡の一等地である現在地に教会、幼稚園舎、牧師館を建築した。幼稚園は土曜日が休園日で、日曜日には園児全員が日曜学校の生徒として卒業生の兄姉達と一緒に喜々として集った時代があったという。1936年には、真野栄伝道師の定住に依る伝道の進展もあったと記録されているが、宣教師の引き揚げ後、町の要請で丸岡教会の建物・土地の一切が丸岡町に寄付され、幼稚園は町営となった。福井大震災で殆どの家屋が倒壊焼失した中で、教会の建物だけが倒壊を免れ、教会は救護所や役場の仮事務所として用いられたりもした。震災の復興と共に丸岡教会の建物・土地は返還された。1951年の文部省指導で出来た就学前準備教育としての1年だけの公立幼稚園大衆化状況の中で、戦前からのキリスト教保育の緑幼稚園は、名門幼稚園として再開を待たれており、1953年、園児33名で再開。その時、父母の皆さんがピアノを買って下さったという。カナダの信徒達から送られた物心両面の援助によって土台を築かれた福井の5つの幼稚園の中で、現在、丸岡にだけ、教会、牧師館がなく、牧師(園長)もなかなか定着出来ないでいる。しかし、酒井先生ら現場の方たちが定住牧師(園長)の居ない困難さを補い合って一生懸命働いておられ、今日まで続いている。更にこうした状況を負いながらも、先生達が子ども達の為に誠意をもって良い働きをされている事を、町の人々が保育を通して知り、丸岡幼稚園を自分達が支援

児 玉 衣 子・菅 原 創・上 垣 信 子

しようと積極的な協力をするうち、わが町の誇れる幼稚園だと信頼されてきたと思う。

学校法人 <sup>めくみ</sup> 恩恵幼稚園



武生市住吉町3-29

創立者：ノルウェー、自由クリスチャン伝道団  
W.クラッペ

創 立：1954（昭和29年）4月  
宗教法人で開園。

学校法人化は1998年10月。

話し手：関やす子園長

園資料：『福井県の私学』1991。

### 関 やす子園長のお話

#### ご経歴など

関やす子園長は、1965年4月、36歳の時、主任として赴任して来られた。赴任以前から1989年まで園長はノルウェーミッションのオーセハウゲン宣教師だった。関氏はその後任として園長に就任された。

関園長は長野県のご出身。岩村田女学校卒業。卒業後、仏教系の日の丸幼稚園を手伝いながら幼稚園教諭養成校の受験準備をされ、24歳の時に玉成保育専門学校に入学された。ベラアルウィン先生から『幼子の歌』（『母の歌と愛撫の歌』）と恩物を徹底的に習った。この他、教授陣には高崎能樹先生、佐藤初重先生等がおられた。

卒業後、太田千恵子先生とともに関町恩恵幼稚園を創立。その後、すみれ幼稚園でも働かれた後、農村伝道神学校に学ばれた。その当時は戦後民主主義の輝かしい時期で、男女共学でもあり、関先生にとって寮生活自体が新鮮で楽しかったそうである。また、この時代に寄席の鈴本演芸場、末広亭、あるいは歌舞伎等に通ったことが、今日の自分の保育に生きていると思うと語られる。この後、鶴川学園保育科しおん幼稚園で太田千恵子園長の下で主任として働かれた後、武生に赴任された。

#### 園舎、学校法人化

園舎は元々織屋（大きな木造の織物工場）だったそうで、梁の太い骨組みのしっかりした二階建である。ただし工場のため広い平土間だったので毎年のように戸、窓、床等を改築してきた。また部屋の間仕切りも園児数の変化等にあわせてこれまで何十回となく変更しているそうで、これからも変更されそうである。関先生ご自身、園舎二階に居住されている。

学校法人化したのはつい最近、1998年10月である。大変な苦勞だったとかで「嫌だから（母堂のおられる）郷里に帰りたと思ったこともあるが、自分は空であっても神様が中身を入れてくださる、と信じてこれまで来た」と言われる。

### 保育のことなど

子どもを迎える準備として、寒い時期は朝7時30分になるとストーブに火を入れ、8時に子どもが来ると摂氏18度になるようにしておく。園バスはなく、朝8時から9時30分の間は、園長も含めて誰か一人がお迎えに玄関に立つ。

保育の流れは、8時～9時30分は自由遊び。その後、片づけをして、晴天時には園庭で体操、部屋に入って乾布摩擦をする。その後、各クラス毎に集まってお話など。園児は3歳児、4歳児、5歳児とも各1クラスで計60名ほどである。その後、毎日、礼拝コーナーに全員集合して礼拝が行なわれる。約30分間であって一日の活動のクライマックスであるという。子ども達はさんびかを1ヵ月に3～4曲覚えるそうである。

現在、お弁当日は週4日である。水曜日は祈祷日なので保育を午前中で終わっている。以前はお弁当日はなかった由。

夏の一泊保育は年長組になると行なわれる。毎年、南条町のそまやま荘で、7月21、22日のはす祭りの時に行なう。この時には「私だけのお母さん」になってもらうために母親参加なのだという。

誕生会は、現在、3ヵ月に1度、該当児の母親も参加して全員でお祝いをする。これは一人500円の会費制で、ケーキは恩恵幼稚園御用達の特製ケーキだそうである。以前は、誕生会は誕生月の子どもだけを対象にして、残りの子どもは降園した後に行なった。母親と一緒に赤飯を食べ、プレゼントは母の会から出たという。

恩物を年長組のみ、一人ずつに持たせている。一片もなくさないように片づける時だけは注意させる。ビデオも参考にする由。

### その他

三歳児保育は、人数は少ないものの最初から行なっている。関先生が赴任された当時、3歳、4歳、5歳とも各1クラスで計60名位だったのが赴任されるとすぐに90名になったそうである。関先生が赴任された当時、既に母の会が活発に活動していたという。

### 筆者感想

夏期保育の一日、参観をさせていただき礼拝をともにした。広い礼拝コーナーに全園児が集まり礼拝が始まる。約30分の礼拝のためのお話の内容と歌うさんびかの予定はされている。しかし関先生のお話はお話だけに終わるのではなく、お話の展開につれて途中で臨機応変にさんびか以外の歌もリズム活動も入ってくる。子ども達はお話の展開につれて歌も歌い、リズム活動も行なう、そのような楽しい礼拝である。これは話者と奏楽者との息があっていないとできない礼拝である。このような礼拝のあり方を、関先生は太田千恵子先生の奏楽者として組んで保育を行なわれた時代にお二人で作り上げられたという。誰にでも真似られるものではない関園長の個性の豊かな礼拝である。卒園生が後々まで礼拝を印象深く覚えていると話す、との由だが筆者も全く同感だった。

その他

## A. JKU年報に記載され、現存しない幼稚園

この他、現存しないが年報に報告されている幼稚園の記録を以下に挙げておく。

### 1. Biko (美光) 幼稚園

American Presbyterian により1911年設立。園長兼教諭 Miss Takata、頌栄卒。園児数25名。(5号、1911記載)。

3号の金沢、英和幼稚園の報告に Miss Takata の名が挙がっているのも、彼女は金沢、英和幼稚園から当地に開園のために来たことが推測される。

園報告は7号(1913、大正2)に初めて記載される。園長 Mrs. J. E. Detweiler による記述で、秋には43名の子どもと2名の教師が新しく入り、翌春には園児出席は61名まで増え、教師もさらに1名増員されたことが語られている。また、母の会は月2回開催され、礼拝の後、裁縫(園児の衣服か)が教えられたと述べられている。主任として Miss Takamura 頌栄卒、が挙げられている。

9号になると、巻末リストに Presbyterian 系の1園として創立1910年、園長 Mrs. Detweiler、教師 Miss Murata 頌栄卒、園児数40名で挙がっている。しかし、翌10号は北陸部会発足報告がされている年であるが、Presbyterian の各園報告は北陸では金沢、北陸女学校のみである。また JKU 会員に Mrs. Detweiler の名前も見当らず、以降、Biko 幼稚園の名前は消える。

### 2. 6号(1912)巻末リストには Fukui 幼稚園という名称で園長 Mr. J. Dunlop、教師 Miss Takamura が挙がっている。園児数、創立年などの記載はない。この園は、Presbytalian の項にある。

上掲の Biko 幼稚園および Fukui 幼稚園については、ダンロップ宣教師、デットワイラー宣教師等 が関係していた現日本基督教会福井宝永教会の『日本基督教会福井教会百年史』に掲載されている美光幼稚園およびもう一園(名称不明)と思われる。同誌によれば美光幼稚園の創立は1913年とされているものの、横山とみを姉の記憶に頼った話である。なお、美光幼稚園が判明したのは、上垣信子氏が、先般、横山とみを氏を病床に見舞った際、同姉がビコー幼稚園卒と話されたのがきっかけである。しかし、既に漢字の記憶は消えておられたという。

同誌によれば、美光幼稚園および Fukui 幼稚園の閉園は1917年3月になっている。理由はデットワイラー宣教師が福井県下の伝道に熱中されたためであったという。

## B 訪問できなかった幼稚園

### 1. 小浜市の幼稚園

訪問を希望していたが、筆者の体調不良のため手続きをとれなかった。今後、機会を得たいと

願っている。

## 2. 福井市内、光の子幼稚園

園側が訪問、資料閲覧、提供等を希望されなかった。

## C 仏教系幼稚園でお話を伺う

今回、仏教系幼稚園2園のお話も伺う機会が与えられた。それらのお話を通して福井の保育史におけるキリスト教保育の位置の一端を窺えたことについても報告しておきたい。

### 1. 隆松学園小鳩幼稚園 所在地：福井市志比口2丁目25-25

1954年、浄土宗西山禅林寺派隆松寺、住職福澤弘隆師が、現住所に近い地に幼稚園を開設。現福澤博（弘温）園長は1969年に跡を継がれた。1999年5月に筆者たちが訪問した時には、入院加療の身を退院間近とはいえ一時帰宅してお話を聞かせて下さった。

#### 開園の経緯など

開園以前の当時、食物もなく子どものための公園も遊び道具もない時代だった。餅つきをして子どもを喜ばせようと考えたが、餅米もなかった。それを近所のお婆さんが伝え聞いて一升の餅米を持ってきて下さったりして少しずつ集まって餅つきができた。

子どものために幼稚園を作った。幼稚園にしたのは、親も巻き込んで子どものことを考えようと思ったからだ。開園の時の園児数は40名。3歳児が1名、4歳児が10名弱、あとは5歳児だった。月謝は400円だった。園児数は毎年20名ずつ増えていった。それまで市の中心部には栄冠、城之橋、聖三一、等の幼稚園があったが、この辺りにはなかったので「やっと幼稚園ができた、栄冠なみになった」と地域の人たちに喜ばれた。

教諭に経験者は招かなかった。園長も助教諭で担任をし、藤島高校等の卒業生を採用した。この先生たちは皆、浪速短大の通信教育で資格を取った。素人ばかりで始めた幼稚園だったが、1957年に認可がおりた。1948年3月に文部省から出ていた「保育要領」は1956年2月に「幼稚園教育要領」になり、出張費も出なかったが東京へ勉強しに行った。

子どもたちはかなり遠くから通園した。弘温先生は2駅先の新保駅まで迎えに行き、駅で子どもを受け取り、2駅歩いて登園した。途中、竹を振りまわし蜻蛉や蛙を捕まえながら来た。帰りも同じだった。園から100m位の道程は母親たちが自発的に立ってくれ、雪下ろしは父親たちが自発的にしてくれた。親との会合も、母親との会だけではなく父親との会も行なった。親睦の楽しい会だった。

当時の親は「先生、何でもやっごらん」という感じで、園に子どもを任せてくれた。親の気質は、大学紛争（1968年、安田講堂事件）世代が親になった頃から変化したと感じている。ある時、

児 玉 衣 子・菅 原 創・上 垣 信 子

相手の言い分を「ナンセンス」と遮るようなやり方がある母親から出た。その頃から全体的な気質も変化した。親の子育ての姿勢について、以前は、親自身（大人の世代）に自分たちの子育てへの姿勢や個性があるのだが、それらを適度に幼稚園に合わせていた。しかし、気質が変化した頃から、幼稚園に合う子どもを育てるといふように変わったと感じている。

筆者感想

ご健康本復でないのに訪問を受けて下さり、恐縮しながらお話を伺った。弘温先生の保育のご経歴は、まさに戦後日本の保育史でもあった。戦後の復興、平和な発展、幸福への夢と幼児期からの人間形成とが肯定的に重なり合って始まったわが国の20世紀後半の保育および園児家庭の暮しが、生き生きと伝わってくる。これらのお話の中には、単に懐古で振り返るのではなく現在の激しい変化に曝されている保育状況においても記憶しておかなければならない大事なものが含まれていると感じられた。それは、一言にいうならば、人間の備えているはずの資質への大きな信頼感ともいふべきものであって、宗教的な土台を持たないかぎり生まれてこない性質のものであると感じられた。

2. 学校法人 聖徳幼稚園 所在地：福井市松本3丁目11-9

現園長の北條絃文師のお話および『創立40周年 あゆみ』（1989.11）の記述を以下にまとめる。1950年、浄土真宗本願寺派興宗寺、住職北條鏡然師により創設。聖徳幼稚園創設には福井大空襲（1945年7月）、福井大地震（1948年7月）という2度にわたる大災害が関係している。1948年4月、焦土に新築された西別院の庫裏を仮園舎にして尾上幼稚園が再開された。しかし同年7月に大地震のため倒壊、休園。同年10月に再開した時に鏡然師が園長に就任された。この間に殺伐とした世相の中にこそ、広く幼児の心に仏心を育てなければならないという思いを強くされて、翌年春に尾上幼稚園園長を辞任して自園創設準備に入られたという。そして寺は公民活動をすべきという信念でもって寺に聖徳公民館と銘を掲げ、幼稚園を始め諸教室、会の会場等に提供されたという。だから、聖徳幼稚園は寺に1950年3月開設。園長は鏡然師。入園式は、以降、毎年4月8日に行なわれ、この日から子どもたちは「み仏の子」として迎えられ、育てられるという。

30名ほどの新入園児を迎えて1年保育で始まった幼稚園は、父兄ともどもに発展の熱意に燃えて、母親たちとともに子ども用の白いエプロンを作って次年度の入園勧誘に届けて頂いたりしたという。

現北條絃文園長によると、育友会（母の会）活動は現在も盛んで、園児の三分の一位の親が役員になって下さるといふ。また、聖徳公民館の方では従来から家庭学級も開いていて、子育てのために①趣味講座、②子どもと一緒にする活動、③しつけ講座、等が開かれているという。つまり、幼稚園、家庭、地域等、子どもの生活圏全体が視野に入れられた活動が行なわれているわけである。

筆者感想

園長のお話を伺いながら、幼稚園の活動だけに止まらない、お寺が地域の文化センターでもあつ

た封建時代からのひとつの伝統的なあり方が今日に至るまで続いている、そんな姿を見せて頂いた気がした。仏教が地域に根づいて生きているというのは、このような幅広い生活への関わりが年代を経て重ねられており、保育もその一環にあるのだった。

園内を鶏が歩いていたが、園長の「ゆったりと自然の生命に心を通わすことのできるような幼稚園時代を過ごしてほしい。作ったり友達と交流したり、心のひだを養うような経験をしてほしい」という願いは、宗教的情操のなかで涵養されていることを実感した。

児玉衣子・菅原 創・上垣信子

## 福井県のキリスト教保育史

カナダ・メソジストによるキリスト教幼稚園の草創期を中心として

上垣 信子

### はじめに

カナダ・メソジストは、日本に宣教師を派遣して、1897年長野に旭幼稚園や梅花幼稚園を開設したが、北陸に派遣された宣教師たちは、1908(明治41)年福井市に栄冠幼稚園を設立した。石川や富山県に派遣されていた宣教師たちも1910年に川上幼稚園、馬場幼稚園、その後、青葉幼稚園、白銀幼稚園、七尾幼稚園、桜木幼稚園、等等、多くの幼稚園を設立した。

福井県のキリスト教幼稚園は、栄冠幼稚園、旧日基の美光幼稚園(1911~1917) 敦賀教会幼稚園(1915) 緑幼稚園(1918) 聖公会の聖ルカ幼稚園(1918) 旭幼稚園(1919) 城之橋幼稚園(1927) 聖公会の聖三一幼稚園(1929) ノルウェー・ミッションの恩恵幼稚園(1954) 日キ教団の光の子幼稚園(1968)が有る。この中で栄冠、敦賀、緑、旭、城之橋の5つの幼稚園をカナダ・メソジストが設立したが、彼等が第二次世界大戦勃発前迄、運営の責任を担った期間を“草創期”として、どのような保育が行なわれたのかを考察した。当時の宣教師や保姆は既に亡くなられたかご高齢で、この研究で訪問して“聞き書き”させて頂いた竹原先生や松濱先生その他の方々のような生き生きとしたお話しは書けないが、この先生方のように生涯、保育に専念して園を担ってこられた歴史と同質の保育を、時代を遡って婦人宣教師と日本人保姆らの、「広く宣教の働きや家庭教育にも力を注いだ」とJKU年報に報告され、他の県内幼稚園の目標にされたという、由縁や、福井のキリスト教保育の土台を築かれた彼等の姿勢に学びたいと考える。

資料：栄冠幼稚園75周年誌、緑幼稚園65周年誌、大野日本メソジスト教会史誌(墨書き)、旭幼稚園アルバム(大野教会所蔵)、来日メソジスト宣教師事典(教文館発行)、JKU年報、日本キリスト教保育百年史(キ保連発行)、日本キリスト教保育80年史(同)、福井神明教会90周年誌、栄冠幼稚園90周年誌、福井の童話(リブリオ出版)、園長変更申請書と履歴書の写し(ミス ステープルスより東京府知事宛)、福井県の私学。

### 派遣されたミッションの婦人たち

福井に派遣された宣教師たちの中で、幼稚園の運営に直接関わった人々は末尾に掲げる表の通りである。幼稚園師範学校を卒業した後、カナダの Victoria 大学や、Evanston の National Col. of Education などを卒業したり、合同教会トレーニングスクールを修了したり、メソジスト・ナショナル宣教師養成所で研修したりして来た人々、カナダで公立学校の教職に就いていた人もいる。来日後、他県の幼稚園で園長をしたり、甲府や、東京の東洋英和女学校師範科で教鞭をとったり、校長をした人、東京亀戸の愛清館で社会福祉活動を担ってから来た人もいた。また、福井での在任期間を終えて日本の他の地域での働きや帰国後の動静を『事典』で調べると、戦後、再来日してキリ



スト教保育の再生に尽力したロック。ストーン宣教師夫人となったギレスビーの他、戦争中から戦後ずっと、そして引退してからも日本人或は日系カナダ人の為にタシュミの収容所その他で彼等の牧会の為、生涯を捧げたミス ライアンのような人もいる。

### 創立と家庭への働きかけ

ヘニガー宣教師とホームズ宣教師はカナダ・メソジストの福井伝道教区主任であった。夫人達は、幼稚園の園長として活躍したが、それは、日本伝道をカナダ・メソジストが行なう海外伝道の最大方針とする決議をし、信徒達がその為に祈りと献金とを献げて自分達が送り出されている背景からである。カナダ・メソジストは特に幼稚園事業が得意だと言われていた。ヘニガー夫人は宣教師館を使って欧米式の幼稚園教育を始め、母国への手紙に「3年後の今では30名に増加。月2回、母親の会を開き、家庭生活の様々な実際問題を中心に信仰的な話をすると共に貸し出し図書を作ったところ、好評である。お料理講習会、バイブルクラスも行なっている」と報告している。文面からは、宣教師夫人が幼稚園を福音的責任を果たす為に開設した面もあるが、当時は中々得がたい公立伝習所出身の有資格者保姆を東京から招いている事から、創立時すでに、教育上の責任を負う姿勢が感じられる。ホームズ夫人は JKU15号に「旭幼稚園の或る母親が教会幼稚園に通うようになって、嘘をつかなくなり友達と喧嘩をしなくなったと話した。」と報告。第3代目のステーブルス園長は、JKU 報告で(1922～1923)「各園の子供たちが、近所の子どもに良い影響を与えたり、福音の“seed carrier”として子どもが用いられている事」を書いている。又、子どもの状態から保健衛生や生活指導に力を入れたという。深い木立の中で、机と椅子を並べ、おやつを食べたり、歯磨きをしている写真があるが、こうした行き届いた日常の保育が、親に、良い影響を与え、欧米の合理的な生活を導入する役割も果たしたと共に幼稚園で人格の基礎が培われたと言う卒業生が多数ある。また、カナダ・メソジスト最後の園長のライアン先生については、「優しい方だったが、家庭訪問だけは厳しく殆ど毎日しなければならず、保姆になりたての私はしどろもどろで、却ってお母さんに戸籍調べをされたりして困った。」という新米保姆の記述がある。“少子化 都市化 情報化 孤立化”という昨今の子育ての課題とは正反対の状況の中でこんなに家庭への働きかけを大事にしていた草創期の保育に子育て支援の在り方を学ばされる。

### お庭、建物、設備

栄冠幼稚園を、現、福井神明教会と宣教師館の敷地で創めたが、間もなく隣地の武家屋敷、1,162坪を苦心の末、購入！「市の中心部に在りながら別世界のような広大な敷地の中には鬱蒼と茂ったタブや檜の大木やその太い根がのたうつ築山（椿も一杯）があり、築山でよくかくれんぼをした。竹藪の中を行くと小川の注ぐ広い池があり、椎の実や柿の葉が落ちていたのを覚えている。又、深い木立を突き抜けると明るい広い原っぱがあり、花壇がきれいだった。幼稚園は、武家屋敷の藁屋根の母屋の中を板張りのホールに改造したものだった。幼児向きに屋敷の廊下は青竹で囲いをしたり、小石を敷いて歩き易くしてあった。(1917年1月出火により焼失。2階建ての洋館風の園舎が9月

児 玉 衣 子・菅 原 創・上 垣 信 子

に再建された)白亜の宣教師館や、尖塔のある英国の田舎風の教会や、洋風の婦人宣教師館、クローバーで縁取りしたテニスコート、等が当時、まだ残っていた武家屋敷群と奇妙にマッチしていた」と記している人もいる。卒業生の寄稿文は大半が、これらの自然環境で遊んだ思い出である。

ここに福井伝道の本拠地が置かれ、牧師住宅、婦人伝道師住宅、保姆住宅等も建てられ働き人が共同生活をした。或る意味で当時の福井の精神文化の中心がここにあったと言われた。

設備としては遊具の記述はなく、写真にも無い。恩物が全部揃ってよく使われ、ヒルの大型積み木で、のびのびと遊んだと言う。1925年カナダの教会からピアノが送られてきて、土川五郎からリトミックを習ったりした。又、ピアノを弾ける人が未だ居なかったので、専門の人を採用した。

### 保姆達の協力と保育、研修

栄冠幼稚園の第2代園長ミセスホームスは敦賀や丸岡や大野の幼稚園の創立者でもあるが、例えば、丸岡の緑幼稚園の開設は、福井伝道教区の一環として建てられていた丸岡講義所に、越山みよが主任保姆として着任して始められた。栄冠幼稚園で2年間、徳永津義主任保姆の薫陶を受けた同姉は、「ホームス宣教師が丸岡に幼稚園を作ってほしいと言われまして、保姆助手をしていた文殊村のお寺さんの娘さんの吉村さんと2人で丸岡に移り、仏教の反対される中で幼稚園を始めた」と記している。越山保姆は、その後、村山牧師と結婚。大野教会と旭幼稚園や、敦賀教会と同付属幼稚園で牧師と主任保姆として仕えた。他にも栄冠から安良、山本、児玉、郷司 他の優れた保姆たちが、福井県全域を伝道圏とした、カナダ・ミッションの福井伝道教区主任ホームス宣教師のもとで、大野、丸岡、敦賀に出かけて、宣教と教育事業の為に働いたのであって、今日のような各個教会に依る宣教活動方式とは異なっていた。それは、恰も広大な農業国カナダから未だ開国50年にしかない島国の日本に派遣されてきた婦人宣教師の骨太の自主自律の生き方に似ていたと思う。

『逆境の福音』の徳永規久雄牧師の娘、徳永津義もその一人であった。長崎活水女学校幼稚園師範科を卒業後2年間、助手として母校に残り、高森藤の元で働いていたが、栄冠幼稚園が主任保姆として迎え、1914年9月から22年11月まで勤めた。高森がコロンビア大でデューイの幼児教育思想を学び修士号を取得して帰るまでの一時期、母校での高森の代理を頼まれて、一年間母校に帰り保姆養成に当たったこともあった。(大野教会史誌には、1918年7月6日同教会で婦人会を開いており、「徳永つき氏講演ス、来会者9名」とあり、同年10月15日、「第一回ノ料理会ヲ開ク、ホームス夫人来ラル。会スルモノ13名」とある。翌春旭幼稚園が設立されたのだが、保姆と宣教師夫人が幼稚園開設の為に周到な準備をしていた。徳永保姆は、この後、母校へ戻った。)「徳永先生は、男女が小脇に両手を置いて、【可愛ゆき子ども】を歌いながら、スキップして回らせ、相手がいない子にはご自分が相手になって下さった。楽しかった。」と男子卒業生は栄冠幼稚園の生活について記している。「積み木遊びのほか、色紙を使った編織り、画用紙に毛糸でロウ差しをして、金魚などを描いた。色紙を丸や三角に切ってデザインした作品もある。」「朝の輪の時間、“うるわしき朝も”の讚美歌を歌い、先生に一句一句ついて〔神様昨晚も安らかにお守り下さいまして有難うございました。〕から始まるお祈りの言葉、今もこの言葉から祈っている。」「歌はおうむ、こまどり、

可愛ゆき子供、小さいお庭、笹舟。リズム遊戯は農夫、機織り」「自然豊かなお庭で、お遊戯をしている時、一人抜け出て、広い池の水面に和傘の端をつけ、竹の柄を軸にして手で回転させながら、まわるまわるみずぐるま などと着物もエプロンもびしょぬれで遊んでいて、くたびれてきてふと我に返ると皆屋内に入って誰もいない。と側に徳永先生が黙って笑いながら立っていた。まるで或る事に夢中になっている様子を大切なものとも思っておられるかのように。その時の先生の長身の姿勢と笑顔、和傘の面が3匹の走っている絵馬だった事を妙に覚えている。」徳永保母は福永盾雄牧師と結婚した。福永牧師は政府の植民地政策を遺憾に思い、1922年渡朝。津義保母も開城の女学校で教えたという。後に西南学院大学保育科主任教授になり、フレーベルの教育思想を研究し続けた。

どの園でも、毎朝、モーニングサークルでの礼拝は小さい椅子に腰掛けて、モーニングトオークをした。1週間に一度はバイブルトオークがあり、「主我を愛す」を英語で歌ったりした。時々、師範学校の生徒が見学に来た。児玉咲子保母は、「小学校、女学校と学んできて、怖い先生ばかりだったのに、ここには、全く違った世界があるように見えた。幼児は「アノネ」と、たどたどしくはあっても、先生を信頼し、心安らかに、もたれかかり、触れ合って話し合い、成長していった。」と記している。『キ保誌』1999年3月号の巻頭言に記したような、保母の人格形成がなされ、婦人宣教師館で毎月1回、誕生会があって、そこで、様々な趣向を凝らしたユーモア溢れる集まりをもったと言う。又、月に一度のティーチャーズミーティングは、ホームス宣教師一家4人、宣教師付きの2人の日本人女性、婦人宣教師4人、牧師4人、婦人伝道師3人（保育を手伝うこともあり、保母と同室で起居した人もいる）保母5人の計22人になることもあった。5園の状況を連絡しあったり、研究発表をしたり親睦を深めたりしたという。ステーブルズ園長はJKUの講師としても奉仕して保母の研修を勧めることに努めた。後に草創期の婦人宣教師の福井在任期間や各園での園長在任期間を表にしたものを掲げるが、それで見ると、何人もの宣教師が重なっている事が解る。（附・城之橋幼稚園と敦賀教会幼稚園は記録が少い為、JKU年報などで分かった所だけ記載した。）

### 宣教師達の引き揚げ

カナダ・ミッションは、日本の幼児教育の為に優れた宣教師たちを次々と派遣し、キリスト教信仰と愛に基づき、進歩的で自由な、人格を尊ぶ保育の伝統を遺した。不幸な戦争によって宣教師たちが引き揚げざるを得なくなった時も、カナダ・メソジストの福井における最後の園長ミス ライアンは、教会の送別会で、幹事長が「神のみ心です。」と祈ったのに対し、「これは神のみ心ではありません。人間の罪です。」と断言し、帰国した。その思いは『お別れのご挨拶』として福井新聞（1941.3.16）に掲載され、【・・・私どもは誠心から、日本の国の幸と福井に在る愛する皆様方の上に神のご祝福のあらんことを祈る者でございます。】とあるが、先生の在日は、日本を愛し責任的に働く地の塩、世の光としての働きであった。福井駅には、先生を見送る黒山の人々があつたと言う。

児・玉・衣・子・菅原 創・上・垣 信子

終わりに

戦災、震災と相次ぐ痛手乗り越えて今日まで伝統が生き続けているのは草創期のこの様な多くの人々の献身的な業とそれを受け継いだ日本人教師達の働き、教会の支え、また、地域の人々の厚い信頼があったからだと思われ改めて思われる。

1954年から、県下のキリスト教幼稚園の教師の研修と情報交換、また親睦のために、“仔羊会”が作られ、今も良い働きをしているが、戦前は同一教派内ではあったが、これを超える内容の共同体があった。各個別の教会（幼稚園）主義としてでなく、「福井伝道教区」という広い視野をもった一つの共同体として血の通った連携プレーがなされていた。複数の幼稚園を1人の園長が兼任して、そこへ婦人伝道師と共同生活をしている保姆や、婦人伝道師と保姆の2人を一緒にして、あちこちに派遣しており、幼稚園の働きは、宣教と教育が渾然一体となっていた。“夢よ、もう一度”と言うのではなく、日本が子どもたちの育ちの現状打破に苦悩している今、21世紀に相応しい神学に基づく新たなキリスト教保育理論と実践を生み出さねばならないと思う。

福井の教会幼稚園に関わった  
カナダ・メソジストの婦人宣教師たち

カナダ・メソジスト宣教師夫人及び婦人宣教師名	福井在任期間	園長を務めた幼稚園
HENNIGAR[ヘニガー], May (Mrs. E. C. HENNIGAR) (1882~1963)	1906~12	栄冠幼稚園(1908~12)
HOLMES[ホームズ], Annie (Mrs. C. P. HOLMES) (1873~1959)	1914~37	栄冠幼稚園(1914~21) 敦賀教会幼稚園(1915) 緑幼稚園(1918~22) 旭幼稚園(1919~22)
STAPLES[ステーブルズ], Maria Melissa (1889~1968)	1921~26	栄冠幼稚園(1922~26) 緑幼稚園(1923~26) 旭幼稚園(1923~26)
HAMBLY[ハンブリー], Olive P. (1877~1951)	1922~24	(協力宣教師)
KILLAM[キラム], Ada (1875~1970)	1925~32	(協力宣教師) 緑幼稚園(1927~31) 旭幼稚園(1927~28) 城之橋幼稚園(1927~31)
GILLESPIE[ギレスピー], Jean 帰国後、Stone 宣教師(洞爺丸事故で自ら犠牲になられた)と結婚 (1901~1987)	1926~30	栄冠幼稚園(1926~30) 旭幼稚園(1929~30)
JOST[ジョスト], Eleanor Elizabeth (1900~1980)	1930~33	栄冠幼稚園(1930~33) 旭幼稚園(1931~33)
RORKE[ローク], Luella May 山梨英和女学校と兼務した時期…………… (1893~1983)	1932-38 1939-41	協力宣教師 緑幼稚園(1932~33) 城之橋幼稚園(1932~)
RYAN[ライアン], Esther Letitia Maria (1884~1986)	1933~41	栄冠幼稚園(1933~41) 緑幼稚園(1933~41) 旭幼稚園(1934~41)